２０１９年事業計画書

2019年4月1日～2020年3月31日

第11期　社員総会　2019年6月14日

栽培野帳

特定非営利活動法人ハンサムガーデン

中小農家が使いやすい！

ICT/IoT農業ツールを考えるコンソーシアム

2019年度　団体の事業案

本年度、当団体が計画している主な事業案を紹介させて戴きます。

■特定非営利活動に係る事業

①農業の経営と里山や農地とそこを生業とする農業文化　および環境の保護と維持に係る事業

(-1.) 営農事業　ハンサムガーデン宇陀農場の運営

②農産品販売ノウハウの開発と販売、普及に関わる事業

(-2.) 野菜流通事業　ハンサムベジタブルマーケットの運営

③農業を持続的に発展させる為の知見、技術の研究と普及に関わる事業

(-3.)『 (ア.) IoT潅水遠隔支援システム,
(イ.)貯水池水位観測システム
これらのキット化開発と実装』

■その他の事業

④ 産業普及、促進、及び継承に伴う講習や経営指導

a.) アグリチャレンジ研究会

①(特定非営利活動:定款事業1)

農業の経営と里山や農地とそこを生業とする農業文化および環境の保護と維持に係る事業。

▼宇陀圃場担当
松田麻由子

▼富雄圃場担当
廣淵智子

▼栽培統括
窪　一

1)事業の概要

(千円)

売上目標	13,691
生産原価	3,967
管理費	8,284
営業収支	2,245

主力産品をレタス類に絞り栽培しています。都市部(東京2、大阪4、横浜1、京都3)顧客へ営業を展開。栽培では月営農課題を把握、その改善策を整理してまいりました。当期販売予算額¥13,691,016の販売先は、当団体の販売流通事業ベジタブルマーケットと直接販売顧客からの「種まき前契約」で63%、委託販売先(旬の駅、類農園、よってって各店)で37%を見込んでいます。作付は大和高原エリア賃借面積112.9a(春・夏1.6作)、奈良市内エリア22a(冬1作)を確保。通期耕作のべ面積213.9aにレタス類を作付けます。他、来期に向け試験的にビニールハウス2棟2.2aでレタスと合わせてサラダ需要に向けた販売ができる葉物野菜を栽培して、作型の把握と来年度の施設栽培ノウハウの開発を行います。

2)利用農地概況

-1. 宇陀市大宇陀(4月中旬～12月上旬)

農場名	東平尾1	東平尾2	東平尾3	稲戸	拾生	大熊1	大熊2
面積	32a	7	21a	7a	27.9a	12a	6a
地目	畑	畑	田	畑	田	畑	田

拾生圃場

東平尾1圃場

稲戸圃場

-2. 奈良市富雄(12月中旬～4月上旬)

農場名	富雄1	富雄2	富雄3
面積	7a	4a	11a
地目	田	田	田

富雄1圃場

富雄2圃場

②(特定非営利活動：定款事業2)

農産品販売ノウハウの開発と販売、普及に関わる事業：ハンサムベジタブルマーケット

▼ベジマ運営担当
三浦　亜古

▼飲食店流通担当
廣淵智子

▼販売統括
窪　一

1)事業の概要

（千円）

売上目標	12,304
販売原価	9,529
管理費	2,763
営業収支	12

販売業11年目にあたる今期、大阪市西区の店舗販売から、販売量が伸びるチャンネルを積極的にフォローして、卸販売を伸ばしてゆきます。

・食のコミュニティとの協創

食にまつわるコミュニティグループとの連携は昨年から成果をあげつつあります。こうしたコミュニティと連携して頒布方式や指導イベント時の素材野菜などを計画的に供給する商流を組み立ててゆくものです。

・フルーツ等、特徴ある産品取扱

有機農産品を取り扱う青果販売店にフルーツが新たなアイテムとして売れ始めています。愛媛県、奈良県、三重県、岐阜県に新たな仕入先も見つかり、新取扱いアイテムとして売上増に寄与してゆくと考えています。　こうした取組から新たな提案と共感を得られる販売展開を当事業では進めてゆく予定です。

食のマルシェイベント出店
今期は大阪市内の銭湯でのイベントと併催予定。
主たる目的は食コミュニティリーダーとの接触点獲得。

健康や新たな食べ方を指導するイベントに野菜と里山コンテンツを供給。
里山と共生するコンテンツに惹かれる都市市民がターゲット。

定期的な農村料理を楽しむものや、味噌、醤油などの加工体験ワークショップを開催。顧客獲得を狙います。

大阪市西区江戸堀の店頭。
月販25万円に積み上げてゆけるフルーツなどのアイテム追加をもくろんでいます。

③(特定非営利活動：定款事業3)

農業を持続的に発展させる為の知見、技術の研究と普及に関わる事業。

▼研究担当
松田麻由子

▼研究統括
窪　一

1)事業の概要　（千円）

資金目標	600
研究費用	400
管理費	200
営業収支	0

2017年より、遠隔灌水制御システム、貯水池の水位観測システムの優位性を中心に実証してきました。前期より東平尾地区貯水池の水位観測システムが安定的に動作しており、土地改良区事務所へのデータ提供を予定しています。
研究連携先である阿南高専の吉田研究室と装置を活用した都市・里山交流事業についてクラウドファンディングを計画しています。
また、遠隔自動灌水システムは、昨年の福角兄弟農園に続き宇陀市の農業法人の提案を進めていて、1事例の導入を検討して戴いています。これらの導入ノウハウを今期に公開できるキットモデルとして仕組化してゆく構想です。

2)団体保有のICT/IoTシステムシーズ

貯水池、河川の水面までの距離を非接触で計測する観測システム。小規模ソーラー発電で屋外の水辺観測環境で、安定稼働する仕組みになってきました。

団体の主たる圃場の水源に設置。2月から安定して水位観測が実現しています。

最大で12個のバルブや機器の制御が可能な仕組みです。モバイルWifiが設置できる農地であれば遠隔で制御できています。

ビニールハウスに設置する安価な電磁バルブも輸入調達することで導入しやすい価格設定が可能になりました。

スマートホンからリアルタイム制御を実現。構想としては、篤農かの灌水パターンをAIに学ばせて、後追い農家の灌水との差をアドバイスする仕組みを研究しています。

④(その他の事業)

産業普及、促進、及び継承に伴う講習や経営指導

a.) アグリチャレンジ研究会

▼就農ノウハウ指導担当
窪　一

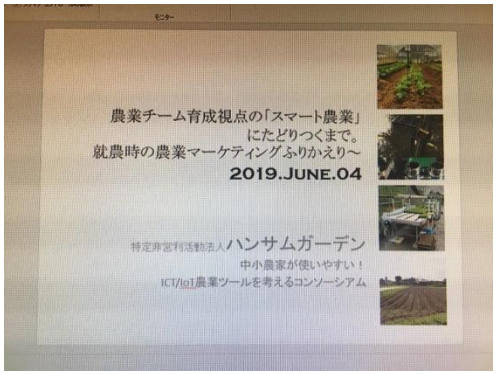
1)事業の概要　　（千円）

資金目標	400
活動費用	350
管理費	50
営業収支	0

その他の事業として、団体がこれまで積み上げてきた体験や出会った成果事例を講座に落とし込み、就農につまづいている方や農業参入を検討されている組織の担当者(現場の方)を対象に発信してゆきます。

これまで企業や個人の営農・就農にまつわる相談を戴くものの、応じきれない状況への解決策としての取組です。団体とその関係者が「上手くゆく、もしくはダメだった営農モデル」についての情報を発信して、農業参入を考える皆さんへの情報提供の場所として集約してゆく事業です。主に龍谷大学が活動の舞台を提供して下さる予定で、秋から大阪梅田キャンパスにおいて、エクステンション講座を企画しています。

2)団体保有の知見と関係者による講座



龍谷大学政策学部での講義。
2014-2018農林水産省異分野融合研究成果の実装を龍谷大学ゼミ学生らと取り組んだ成果とそこに至るまでの団体活動を軸に講義をくみたてています。

龍谷大学RECエクステンションスクール講座
当期、秋の講座で、関西の就農成果事例や農業者による新たな流通事例。そしてイタリアバーリ州での農外からの農村起業事例を講座にする予定です。